



コートとり当番担当クラブ

7月8日 月のコート 美住A

8月9日 月のコート 本町A

9月10日 月のコート 東住B

発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市萩山町 5-6-26-301  
 Tel. 0423-92-8808  
 編集責任者 川村英明

### 第5回太田杯市内団体戦の結果

男子は、5月17日の予定が30日に、女子は、決勝戦・三位決定戦が別々の日に行なわれるという天のいたづらによるハプニングがありました。男子は18チーム、女子は、12チームの参加のもと、雨雲を吹き飛ばさんばかりの熱戦がくりひろげられました。

年々各チームの力量が接近し、スコアの上ではかなりの差があっても、試合の内容としては接戦が多くありました。男子の大沢精棧Aチーム、女子の恩多Aチームは連続優勝しましたが、どのチームも優勝に手の届くところにきておりますので、日程等の都合で主力メンバーが一人でも欠けたり、作戦ミスで来年は又どうなるかわかりません。これも日頃の練習のたまものといえましょう。

次にもう一つのハプニングについて述べておきます。優勝杯を我がチームにと、ファイトを燃やし自己の力量を十分に発揮する姿は美しい、勝負の世界、例えそれがどんなに小さなものであっても、にはつきものです。とはいってもそのことだけに目をうばわれ、応援やその他のマナーを失うようなことはいまいじめねばなりません。女子の決勝戦で見られた日程の変更から生じた選手の組みかえにかうむトラブルも、大会の細則がなかったことが向題だったとはいえ、同じ市民テニス界のことも合せ考えると後味を悪くしてしまいました。硬直連として、細則を作り次回からはトラブルをなくしていくことに努力することになりました。尚、大会の三位迄の順位は次の通りです。

男子	女子
優勝 大沢精棧A	優勝 恩多A
二位 日棧装A	二位 本町A
三位 グリーン	三位 東住

(文責 武谷)



### 戦いすんで.....

〈太田杯終って、各クラブの監督・コーチは語る〉

東住クラス 木村 宏

今回、1・2・3回戦と、なぜか順調に勝ち進み、準決勝に進出することができました。

日棧装との準決勝では、各選手奮闘したものの力おぼえず、結局0-5の完敗でした。私もシングルスに出場し、マッチポイントをにぎりながら逆転負けを喫し、世の中甘くないことを思い知らされました。ついで、クレーンクラスと三位決定戦が行われました。去年1回戦で2-3と負かされている相手です。ダブルス(杉山、中村)1勝、シングルス(玄川)1勝したものの、あと一つがとれず、

またしても、2-3の負けがありました。一番大切なときに集中力を欠いたダブルスをしてしまったことがくやまれます。またここで主力選手の欠場がひびいたと思われました。3位下のガしたものの、東住の精鋭10名(この多くは市民大会において、早めに審判台にすわる傾向がある。)が、夕方まで試合をして、めでたし、めでたし!

〈選手団10名〉

柳 中村 鈴木 杉山 玄川  
 玄瀬 山崎 小泉 江藤 木村

東住クラス 山口 信子

東住の女子はいつも人数が足りなくて参加できずにいましたが、今回は会長さんに苦勞していただいでやっと参加することが出来ました。

一回戦に当たったチームの方々に、進行がスムーズに行われなかったこと、心よく待っていただいたこと、おわびとお礼を申し上げます。

高校生から中年(ごめんなさい)と幅広い年齢層で、又お子さんが熱を出されたのに無理をして出でいたごいたり緊急の出場だったりで大へんだっただけと戦を重ねるごとに、皆の気持ちが一つになつて来てもよいチームが出来上りました。

それにしても三位になれ、皆がはれはれした顔で戦杯(ビールで)でき、ほんとうにうれしく思いました。

8人か一つの試合に一生懸命になるのは団体戦ならではの、いいものだなーと感じました。

東住クラスの皆さん、次回にはうーとがんばりましょう。

我がクラス奮闘す 恩多クラス 中根 一夫

今年我が恩多クラスは太田邸で行われたドロオー会議でのくじ運良く、恩多男子Aは今年こそは優勝、男子Bも一回戦は絶体絶命と奮気込み、予め優勝祝賀会場にと、恩多自治会館を予約し、市内団体太田杯争奪戦に望んだ。結果は恩多男子Bは、日棧装Bを破り当初計画通り一回戦を戦き、2回戦はグリーンAのシングルスを取るなど非常に苦しみ残念ながら惜敗した、恩多男子Aは一回戦軽くグリーンBを破り2回戦は昨年度優勝の強敵チーム日棧装Aと対戦、シングルス1つ取り戦況有利に展開したが勝利の女神、我が方の頭上に落ちず、3-1で涙を飲んだ。

太田杯団体戦終了後、A、Bの全員恩多自治会館に集合し、ビールとつまみを片手に反省すべきは反省し、大いに町内隣り組の親睦、融和を計り、来年こそは太田杯を争奪するぞと、お互い誓い合い散会し豪路についた。

僕は監督2年生 本町クラス 米沢 行夫

昨年より監督を強引に取って団体戦に参加して居ります。私が団体戦の監督をやりたいと思った理由が3つあります。1、私かへたで、かけ出しのころ団体戦に出る幕がなく、応援だけで一日終るのである、他に上手な人が決山いる



しどうしようもなかった。シングルス1つ、ダブルス2つの5名の中に入れてなかったのである。なんとか選手枠を広げて出場したかったのです。

2. 春秋の大会で間違いで、1回戦で当たらない以外絶対に対戦出来ない康村山の一流プレーヤーと試合が出来、その人の気持の持ちようでは、決勝戦の気持ちになれる。

3. 多くの部員に団体戦に出る貰い、試合に慣れて貰って春秋の大会等に連れて参加して、実力を出し切って欲しい。

去年は、男女とも2チームは少し無理がありました。今年はずっと2チームづつ出来ました。

男子は、相手に再まれ過ぎて、去年は日枝装、今年は大沢精持と当り、汗などかくひまもなく負けました。それでも内容が大分良くなって居るので、2年ぐらい先は楽しみです。

女子は、去年は大沢精持に勝ちましたが、上位には入りませんでした。今年も決勝戦まで進みましたが惜しくも敗れました。来期は層が厚くなって来たとし、自信が湧いて来ました。

本町クラブの皆さん、仕事や勉強の合間に練習して、秋の大会、又来期にやっえて頑張り、どこかで勝利を高らかにうたいあげましょう。他のクラスの皆さんも腕をみがいて団体戦の決勝戦であいましょう。

団体戦に参加して 美住クラス 石黒 未広

当初予定されていた17日が雨で31日に男子団体戦が前催されました。今年も当クラスの会長が都合で参加出来なくなり急ぎに代理をおおせつかり、メンバー集めに大変苦労いたしました。当日の朝までかけまわり、やっとのおもいで1チームだけ出場にこぎつけることが出来ました。1回戦、康住クラブと対戦しみごとに敗れました。やっとの思いでメンバーを集めたのに1時間たらずで敗退のはめに、平日頃の練習不足を痛感しています。

どんなに素晴らしい名優でも何回ものリハーサルを積み重ね、やっと本番にみごとな演技をするのです。我々とも同じです。来年の舞台にそなえ今から練習を積み重ね素晴らしいプレーをしたいと思えます。美住クラスの皆さん、がんばりましょう。

青葉クラス 米田 寛

市民大会団体戦には、一回目から毎回参加したが、一回目より二回目、二回目より三回目と、今回は、男子も女子もかなり熱が入っていた。これは回を重ねる毎に、団体戦が個人戦に見られない面白さ、楽しさが理解されて来たことと、団結心が高まって来ているからだと思う。又、特に太田杯が関わっていることが、大会の盛り上に非常に強く影響している。その内、賞品が出るようになるのでは……。

何はともあれ、今回の団体戦は、各チーム共特に強いものを感じ、終わった今も尚余音が残っているように思う。

だから、我々青葉クラスも、男子チームは故障者続出にもかかわらず、二回戦に進出、女子チームは、12名の少女からウソやままで幅広い層のパワーで、準優勝チームと全く互角で戦い、その感触がそのまま来年の大会まで維持されて行くような気配を感じさせる。又、是非どうであってほしいものである。



優勝杯は三年連続我チームに

恩多クラブ 武谷 千枝子

今年は私自身どうも体調がパツとしない事もあって、皆が集った練習が出来ず、ちょっと不手前だったが、そこは日頃の団結力でカバーし、「打倒恩多」の声も尻目に、とうとう三年連続優勝の栄冠を勝ち得た。云うまでもなく、団体戦は個人戦とは違った楽しさがあるので、応援にも熱が入り、手に汗を握った。特に決勝では「ダブルス三つはいただき」という本町チームを吉永、山口ペアが、タイブレークの未取り、優勝を決めた時には、フェデレーションカップの優勝チームの監督もこんな気持ちなのでと思える程の気分であった。

それにしても、我チームのみならず、どのクラスの面々も昨年に較べ、ストローク力がぐんとつき、上達しているのにおどろいた。やはり日頃の家事をもかえりみか(?)の練習の賜とお見受けした。これからは、ボレー力と動きを身につけていけば、ダブルスらしくなり、更に強くなるものと思う。



### 私とテニス <NO 44>

青葉クラス 岩立 和巳

妻：「また、テニス。少しは子供の相手をしよ。毎かいてもなく、ブツブツ……」。

子供：「パパ、また、テニス。帰って来てから一緒に遊んでね」。

取場の同僚：「あいつは、仕事のことより、テニスのことばかり考えているのではないか」。

この様に、私の周囲では、私がテニスをやることを歓迎しないが、気にかけることなく、土、日曜日になると、ラケットを持ってコートに飛び出して行き、帰って来るとすぐ帰ってしまうのが日課となっている。

テニスをやる以前は、マージャンにこり、毎晩の様に遅く帰り、土、日曜日は、ゴロゴロ寝てばかりいた。あまり帰るべきので、月曜日は頭が重くなるという「ゴロゴロ病」にかかっていた。なんとかしてもう少し健康的な生活をすべきなものかと思い、手軽に毎日でも出来るスポーツとしてテニスを始めたわけである。

私の性格は、熱しやすく冷めやすく、やり始めると、飽きるまでマッパ的にやらないと気がすまない。今まで、油絵、恋愛(絵)、パチンコ、スキー、マージャンとほぼ3~4年余りで次から次へと関心事が移り、現在はテニスである。今後もうつとテニスを続けるかどうかは、自分でもわからない。しかし今までの趣味の中では、比較的長く続けられそうな気がする。というのは、人生の半分を過ぎると精神的にも肉体的にも健康であるということが、いかに大事であるかとしみじみと感じており、そのためにはテニスで汗を出すことが最良の方法だと思ふ。

広報部よりお詫い  
自己紹介コーナー、今月号はお休みさせていただきます。

